

# 沢田 としき(さわだ・としき)

## 1、プロフィール

イラストレーター、絵本作家、ステージ美術、ライブペインティング、打楽器ジャンベ演奏など多彩な活躍をするが、平成 22 年、急性骨髄性白血病により 51 歳の若さで死去。

<生没>

1959(昭和 34)年1月 17 日～2010(平成 22)年4月 27 日

<代表作>

『アフリカの音』(講談社、平成 8 年日本絵本賞) 『てではなそう きらきら』(さとうけいこ文、小学館、14 年日本絵本賞読者賞) 『ピリカ、おかあさんへの旅』(越智典子文、福音館書店、19 年児童福祉文化賞) 『ほろづき』(岩崎書店) 『ちきゅうのうえで』(教育画劇)など

<青森との関わり>

外ヶ浜町に生まれ、大間町、むつ市を経て青森市に住む。青森市立沖館小、沖館中、県立青森北高校を卒業。

## 2、作家解説

本名・澤田俊樹(さわだとしき)。昭和 34 年東津軽郡蟹田町(現外ヶ浜町)に生まれ、営林署勤務の父親の転勤に伴い下北郡を経て、小学生の頃から青森市に住む。県立青森北高校では美術部に所属し、バンドを組んでギターを弾いていた。

阿佐ヶ谷美術専門学校ビジュアルデザイン科卒業、昭和 56 年黒田征太郎・長友啓典のデザイン会社K2 に勤務。59 年フリーのイラストレーターとして独立し、100 冊を超える本の表紙・挿絵・装丁、CD ジャケット、ポスター、ステージ美術などを手がけた。

56年『ガロ』掲載の作品を収めたコミックス集『Blues』を自費出版。59年『ウィークエンド』、61年『街角パラダイス』、平成2年画集『PINK&BLUE』などを出版。

平成8年、初めて取り組んだ創作絵本『アフリカの音』が日本絵本賞受賞。生涯のテーマ「命のつながり」の出発点となった。2冊目は、曾祖母をモデルにした『ほろづき』(13年)。「2つの舞台は遠く離れているが、命の営みは同じ」との思いから生まれた。創作絵本はほかに、『ひとりぼっちのいだらぼっち』(16年)、『ちきゅうのうえで』(17年)。「青森の豊かな自然、ねぶたの極彩色や太鼓の音が、自分の原点」と語った。

また作家と組んだ絵本には、『土のふえ』(今西祐行、10年)、『つきよのくじら』(戸田和代、11年)、『エンザロ村のかまど』(さくまゆみこ、16年)、『ピリカ、おかあさんへの旅』(越智典子、18年)、『みさき』(内田麟太郎、21年)、手話絵本『てではなそう』(さとうけいこ)シリーズなど数多く、高い評価を得た。寺村摩耶子著『絵本の子どもたち 14人の絵本作家の世界』(水声社、22年)にも取り上げられている。

全国各地でワークショップや演奏に合わせて絵を描くライブペインティング、「アフリカ子どもの本プロジェクト」メンバーとしても活躍。平成9・13年青森市新町商店街の消火栓ペイント、18・19年東青地区の小学生とともに「巨大絵本づくり」を行った。

21年急性骨髄性白血病を発症し、1年の闘病後51歳で死去した。

### 3、資料紹介

#### ○『アフリカの音』

図書

1996(平成8)年3月10日

250 mm × 260 mm

アフリカの打楽器ジェンベを愛した彼は、音楽とダンスを学ぶ目的で西アフリカのセネガルとマリに1か月間滞在。その時の体験を3年間温めて制作した、初めての創作絵本。第2回日本絵本賞を受賞。「イメージーションの中のリアルなアフリカ」と評された。